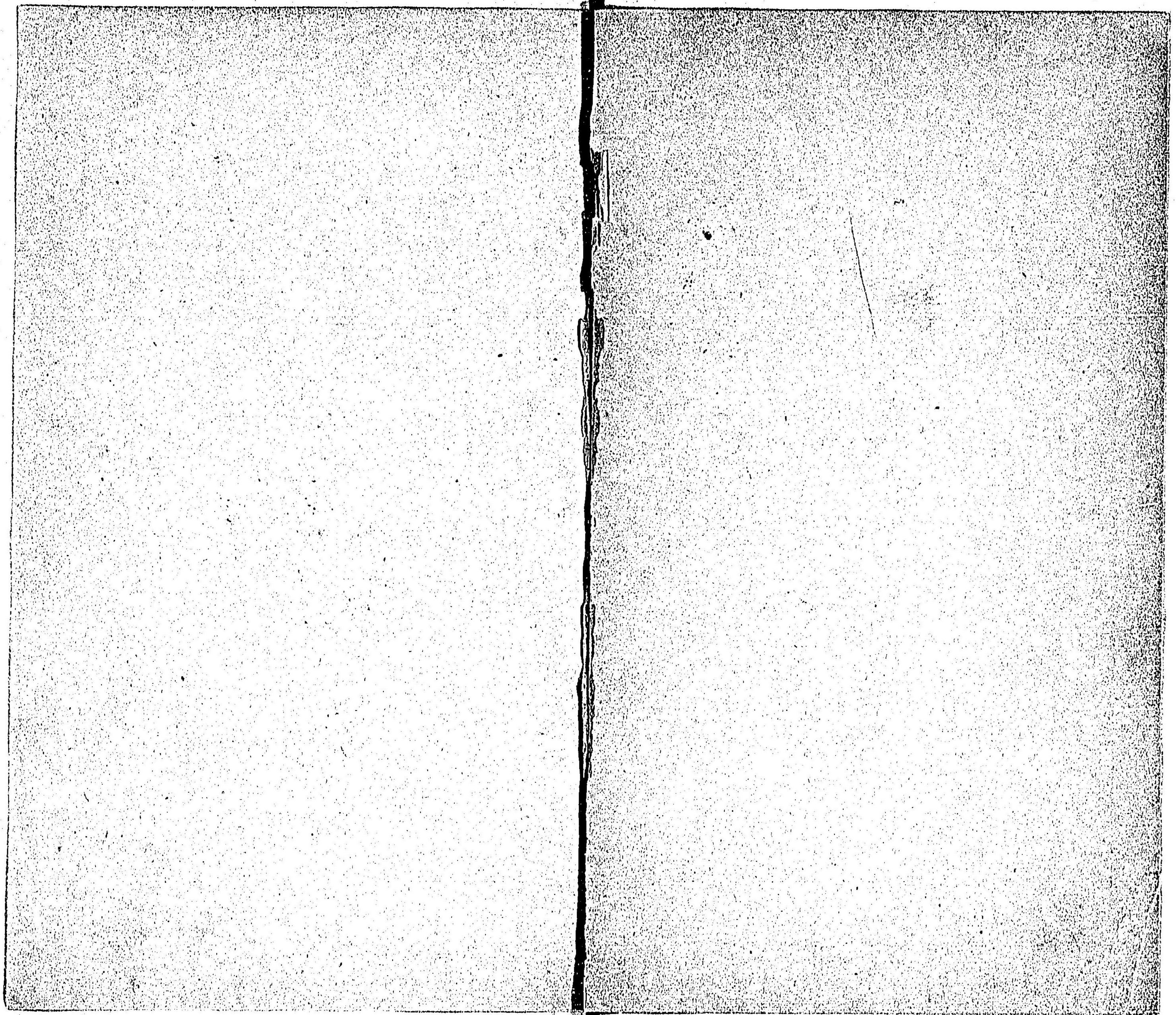


鶴浦小橋藻三衛著

小學  
校用  
並  
普通  
挨拶

完

東京普及舍



序

人品の高卑何を以てか別つ、曰く心性の純否、行爲の良否、言語



の正否による。故に心性を養ふて純ならしむるは、人品をして高からしむる所以。行爲を錬りて良ならしむるは、人品をして高からしむる所以。言語を磨きて正しからしむるは、人品をして高からしむる所以なり。余が此著微は則ち微なりと雖、亦人品をして高からしむる所以の一方便ならずんはあらず、何なりは、則言語を正くする所以なればなり。然れども行爲の良、言語

の正、共に是れ心性の純より來らずんはあらず。然らば則ち、此の冊子によりて人品の高きを養はんとする者は、須らく先づ

心性の純を養ふを怠るべからず。苟も然らずんば、縦へ挨拶の妙、其神に入るも、必竟是れ盆大の兩眼を雙手に包みて泣様を打粉する猿子のみ、豈に道ふに足らんや、豈に道ふに足らんや。

明治二十六年八月念四夕

著者 鵜浦漁史撰

緒言

緒

言

- 一 此書は、五六年前、余が口授せし所を、二三門生の筆記せし者なり。其後、余其の筆記の稿本を把りて之を加損し、改易再三、題を命じて普通挨拶と云ふ。
- 一 此書は、成べく高尚なるものを避けて、適切なるものを選び、普通の作法と相待ちて並び行はれんことを望む。
- 一 本文は言ひかくる挨拶にして、括弧中にあるは返しの挨拶なり。
- 一 一條の挨拶毎に○印を附す。又同じ挨拶にして、三つにも三つにも言ひかへたるは、孰れにても撰び用ふべきを示せるなり。

目次

目次	次
總論 挨拶の心得	一頁
第一 四季の挨拶	五頁
第二 吉事の挨拶	十一頁
第三 凶事の挨拶	十六頁
第四 訪問の挨拶	十八頁
第五 誘引の挨拶	廿一頁
第六 起居の挨拶	廿二頁
第七 請托の挨拶	廿四頁
第八 贈答の挨拶	廿八頁
第九 謝事の挨拶	三十頁
第十 天氣の挨拶	卅三頁

小學普通挨拶

鴿浦 小橋藻三衛著

總論 挨拶の心得

第一 挨拶を陳るに先ちて、衣服を正しく着こなし、進退を優しく立ちふるまふことを心がくべし。衣服正しからず、進退優しからざるは禮にあらず。

第二 挨拶は極めて靜肅に、且愛嬌を含みて陳るを要す。輕卒にして愛嬌なきは無禮なり、必ず人の侮を招かん。

第三 喜びにかゝる挨拶は、少しく高音にて明晰に言ひ

(一)

第四

切り悲みにかゝる換摺は、稍低音に愁聲を帯びて陳ぶべきものとす。是れ人情の自然なればなり。祝日結婚等の如き喜びにかゝる換摺に於ては、十分注意して不祥なる語を避くるを要す。例へば雨天をさしてフシヤウナ天氣、又ワルイ天氣など言はざる類なり。若し之を誤れば禮を知らざる者なりとの誹を受けん。

第五

換摺の中、自然自己の家族又は親戚などのことを陳ぶることあるも、決して尊稱又は敬語を加ふべきものにあらざるなり。例へば父を「れとつさん」と云はずして父と云ひ、兄を「れあにさん」と云はずし

第六

て兄と云ふべき類なり。

常に言語を明晰に使用する心がけなからざるべからず。餘り大音に過ぎ、又小聲に失するは、兎角聽者の迷惑を來すものなり。

第七

語尾は明晰に言ひ止め終るを可とす。語尾に力なきは、尤も忌む所なり。氣怖れする者、殊に語尾に力なき弊に陥り易きが如し、戒むべし。

第八

換摺を陳るに方り、坐せる時は兩手を坐上につき、立てる時は兩手を膝頭に添へ、以て上躰を少しく前に屈むべし。坐立に拘はらず、手を以て漫に身體衣服などの各部を弄ぶは、太だ卑しむべきことな

り。

第九 人と對坐せる時は、我兩眼を其人の胸部以下にす  
る、其人の面部は勿論、其他醜き部分に目を注ぐ等  
の事をなすべからず。

第十 唾痰等を吐き、鼻涕流汗杯を拭ふには、可成音たて  
ざるやう、且人目にたゞざるやう注意すべし。

第十一 他人の談話中、己れ傍より唐突に挨拶、又は談話す  
るは無禮なれば、其談話の途切るゝまで待たざる  
べからず。然れども若し急を要する場合ならば、先  
づ「お話中に御無禮ですが一寸御遮間申上げます」  
と述べ、其れより口を開くべし。

第一 四季の挨拶

二月

○残寒が酷しうムります。(左様です、餘寒が烈しうムりま  
す)皆様、御健勝にムりますか。(有りがたう存じます、皆頑  
健にムます、あなたにも、皆様、御清昌にムりますか)

○まだ寒さでムります。(左様です、まだ寒さがきつうムり  
ます)あなたには、皆様、お勇ましうムりますか。(有りがた  
う存じます、あなたにも、皆様、おかはりはムりませぬか)

三月

○春寒も大分退きました。(左様でムります、寒さも次第に  
薄らぎました)あなたには、御一同、御勇健にムりますか。

(有りがたうムります。貴家にも御一統御健康にムりますか)

○時分がら少し春めきました。左様でムります。追々暮し  
ようなりました。皆様、お揃ひで、恙もムりませぬか。(忝)  
う存じます。孰れも變りばムりませぬ。あなたも、いづれ  
も様、お勇ましうムりますか)

四月 五月

○春暖にムります。好い時候になりました。皆様、御健康に  
ムりますか。有りがたうムります。あなたにも、御一同、御  
清健にムりますか)

○時分がらのどかになりました。仰せの通り、快い時分に  
なりました。あなた方には、皆様、おすこやかに暮しな  
されますか。忝う存じます。あなたにも、皆様、お變りなう  
れ過しなされますか)

五月 六月

○薄暑でムります。仰せの通り、暑さに向ひました。始終御  
機嫌宜しうムりますか。有りがたうムります。あなたに  
も、御機嫌宜しうムりますか)

○追々暑さに向ひました。左様でムります。暑さの氣味に  
なりました。あなたには、いつもお變りなうて、御結構で  
ムります。有りがたう存じます。あなたも、おすこやかで、  
お芽出たう存じます)



七月 八月

○大暑でムリます。(左様でムリます。厳しい炎暑になりま  
した)あなたには、暑さのれ當りもムリませぬか。(有りが  
たう存じます。あなたも、始終御安体でムリますか)

○きつい暑さでムリます。(眞に酷しい暑さでムリます)あ  
なたには、れ障りもなうて、れ芽出たう存じます。(有りが  
たうムリます。あなたにも、御無事で、れ芽出たう存じま  
す)

八月 九月

○残暑が酷しうムリます。(随分残暑が烈しうムリます)あ  
なたには、皆様御勇壯にムリますか。(あなたにも、皆様、御

清健にムリますか)

○まだ暑さが酷しうムリます。(左様です。まだ凌ぎにくう  
ムリます)あなたには、れ勇ましうて、れ芽出たう存じま  
す。(あなたにも、れすこやかでよろしうムリます)

十月

○朝夕はちと冷だしました。(左様でムリます。追々冷気を  
催しました)皆様には、御機嫌うるはしうムリますか。(有  
りがたう存じます。あなたにも、皆様、ごきげん宜しうム  
リますか)

○時分がら追々過しよなりました。(仰せの通り、朝晩は  
餘程涼やかに覺ます)いづれも様、れ勇ましうれ揃ひな

されますか。(有りがたう存じます。あなたにも、皆様、御き  
けんうるはしうムりますか)

十一月 十二月 一月

○寒氣が酷しうムります。(仰せの通り酷しう感じます)皆  
様、御堅勝でれ凌ぎなされますか。(有りがたうムります、  
あなたにも、皆様、御清福にムりますか)

○時分がらきつい寒さでムります。(左様でムります、真に  
きびしい寒さでムります)皆様、れさばりもなう、れ過し  
なされますか。(有りがたう存じます。皆たつしやにムり  
ます。あなたの方にも、どなたも、御機嫌うるはしうムり  
ますか)

第二 吉事の挨拶

新年

○明けましてれ芽出たう存じます。(仰せの通りれ芽出た  
う存じます)

○新年の御祝ひを申し上げます。(御同様に、れ芽出たう存  
じます)あなたの方には、皆様、れ恙なう御加年になりま  
して、れ芽出たう存じます。(有りがたう存じます。あなた  
にも、皆様、れ揃ひでれ重年なされまして、れ芽出たう存  
じます)

○改暦でれ芽出たうムります。(左様でムります、改年の御  
慶、れ芽出たう存じます)貴宅には、皆様、れ揃ひで御超歳

なされまして恐悦おそえつに存じます。(玉館たまぐんにも、御一同御重齡ごいっとうごじゅうれいになりまして、お芽出たう存じます)

紀元節きげんせつ

○今日は紀元節で、お芽出たう存じます。(左様でムります、お芽出たうムります)

○紀元節の佳辰かきんで、お芽出たう存じます。(お芽出たう存じます)

天長節てんぢょうせつ

○今日は天長節で、お芽出たう存じます。(左様でムります、お芽出たうムります)

○天長節の吉辰きつちんで、お芽出たうムります。(左様でムります、)

お芽出たう存じます

婚姻こんいん

○御結婚ごけつこんになりまして、お芽出たう存じます。(有りがたう存じます)

○御婚禮ごこんらいをお芽出たう、お祝いわいひ申上げます。是は聊いささながら、お悦よろこびの印しるしに、お目めにかけます。(是はお心にかけられまして、忝かたじけなう戴かぶきます、どなた様へも、よろしう御傳ごつたへ下されませ)

出生しゅっしょう

○承うけたまりますれば、御安産ごあんさんで、お芽出たう存じます。(有りがたう存じます、平産へいさんで安心あんしんいたしました)

○れ身分けになりまして、れ芽出たう存じます。有りがたう存じます。安産でくつろぎました。是は聊ながら、れ歡びの印にれ目にかけてます。是は御念にかけられまして、有りがたう存じます。

祝壽

○誰様の御祝年で、れ芽出たう存じます。有りがたう存じます。先日は結構にれ祝ひ下されまして、忝う存じます。眞に心もち計りでムります。今日はれ招きに預りまして、無遠慮に参りました。よろれ越し下されました。

入学

○誰様は學校へれ上り成されまして、れ芽出たう存じま

す。有りがたうムります。頑是なしです。宜しうれ頼み申します。

優等

○御勉強のれ効が見にまして、れ芽出たう存じます。致しまして、皆先生のれかけでムります。

○いつも御精が出ますから、れ驗が見にまして、れ羨しう存じます。どう致しまして、僥倖でムります。

卒業

○此度はいよく御卒業になりました。れ芽出たう存じます。有りがたう存じます。れかけで片附きまして、安心致しました。

第三 凶事の挨拶

病氣

○御病氣の御容体はいかゞでムりますか。(有りがたう存じます。昨今は餘程快うムります)

○御病人様はいかゞでムりますか。(有りがたう存じます。次第に快方に向ひました。夫は御安心でムります。是は聊ですが、れ見舞に差上げます。(これはこれは有りがたう頂きます)

災 難 盗火水風等

○先日は意もよらぬ御災難で、承りて驚き入りました。(左様でムります。むごいめに逢ひました)

○先達は存外な御難にたかよりなされまして、誠に氣の毒に存じます。(仰の通り、災難にかよりまして、迷惑いたします。此は輕少ながら、れ見舞の心もちを致します。(これはく、れ心にかけれまして、有りがたう頂きます)

悔

○誰様は御逝去になりまして、御氣沮でムりませう。(左様でムります。残念に存じます。生前は度々れ見舞に預りまして、有りがたうムりしました)

○承りますれば、誰様は眞に意外のこと、れいたはしう存じます。御愁傷でムりませう。(左様でムります。れ察し

の通でムリ申す。是は御靈前へれ供へ下さりませ。(これは有りがたう存じます、直ぐに佛前へ供へます)

第四 訪問の挨拶

初対面するとき

○初めて目にかより申す。私は何處の何と申すものでムリ申す。以後は御親切に願ひます。(左様でムリ申すか、私は某でムリ申す。此方よりこそ宜しう願ひます)

○初めて伺ひ申す。私は何處の誰でムリ申す。以後はどうぞれ見知り置き下されませ。(左様でムリ申すか、私は何處の誰でムリ申す。此後は何卒御懇意に願ひます)

友人を人に紹介するとき

○此御方は私の友だちで何と申す人でムリ申す。(左様でムリ申すか)此後はどうぞ御親切になさつて下されませ。(私こそ宜しう頼み申します)

久闊にて人に逢ひしとき

○れ久しう目にかより申せぬ時分がら……でムリ申す。(左様でムリ申す。追々……に向ひ申した)誠に相濟みませぬ御無沙汰を致しました。(此方にこそ、れ尋ねも申しませぬ)皆様には御健固でれ過しなされ申すか。(有りがたう存じます、あなたにも、皆様、れすこやかにムリ申すか)

祭禮

○れ芽出度い御祭禮でムります。左様でムります。れ招き下されまして、無遠慮に参りました。よろこそ、れこし下されました。

佛事

○誰様の御佛事を御案内下されまして、有りがたう存じます。これはこれは、よろれ越し下されました。是は御靈前へ御供へ下されませ。それは有りがたう存じます。

人を訪ふとき

○御頼み申します。どーれ、どちらかられ越しなされました。私は、何の用事で、何處から参りました。某と申すものでムります。御主人は、れ内々ムりますか。左様でムります。

すか、主人は内々ムります。さあ、此方へれ通りなされませ。

○御免下さりませ。やあ、誰さん、よろれ出でなされました。さあ、れ通りなされませ。左様なら、御免被ります。今日は、宜しいれ天氣でムります。左様でムります。誰様は、御在宿でムりますか。いや、今日は、出ちがいました。内々居ません。いづれ何時頃には歸るでムりますしやう。

第五 誘引の挨拶

他行を誘ふとき

○私は、明日、何處へ参らうと存じます。れ思召もムります。れは、御一緒に参りましやう。有りがたう存じます。左様なら、れ供を致しましやう。

人を招くとき

○れ閑ならちとれ遊びにれ出でなされませ。會讀でも致しましやう。(有りがたう存じます。何れ近々にれ伺ひ申します)

○私方には、明日、何々を致します。何も馳走はムりませぬが、どうぞ何時頃かられ越し下されませ。(それは有りがたう存じます。遠慮なしに参ります)

第六 起居の挨拶

客人の枕元にて

○もう、れ日さめでムりますか。れ煙艸のれ火を持ちて参りました。(それは忝う存じます)

客人の朝起きしとき

○れ早うムります。れ疲れでムりましやう。(れ早うムります。長寝を致しました)

客人に膳を進むるとき

○粗飯ですが、どうぞ召上りませ。(是は御馳走です。頂戴致します)

客人食終りしとき

○宜しう召上りませ。(御馳走でムりました)  
取次をなすとき

○只今某と云ふれ方がれ見ゆになりまして、あなたに、れ目にかゝりたいと申して居られます。如何致しませ



うか。(左様ですか、どうぞ此方へお通し申して下さる  
せ)畏りました。

○只今、あなたへ、此れ手紙が参りました。(これは御厄介で  
ムりました)

就禱を勸むるとき

○れどこを舒べました、さあ、どうぞ、れやすみなされませ。  
(有りがたう存じます、れ先へ御免を蒙ります)

人前を過るとき

○御免なされませ。(さあ、れ通りなされませ)

第七 請托の挨拶

入學の時、教師に向ひて

○私は、今日から、入學を願ひ申します。万事、宜しう願  
ひ申し上げます。

同生徒に向ひて

○私は、今日から、皆様の世話になります。宜しう頼み  
申します。(れ互でムります、御親切に願ひます)

質問するとき

○御面倒ながら、何々を教へ下さりませ。(私も、しかとは  
分りませぬが、何々………かと存じます)これは、ありがた  
う存じます。

添削を頼む

○拙いのを、つい、一文、綴りました、どうぞ御添削を願ひま

す。あなたは、度々よく出来ますまいや、さうも、たはづか  
しう存じます。ゆるく、拜見いたします。

事を頼む

○申し兼ねますが、何某さんにて逢になりましたら、何々  
の事をたつしやりて下さりませ。宜しうムります、左様  
申しまじやう。

○何々を御厄介になりなう存じますが、承引下さりま  
しやうか。畏りました、及ばずながら致して上げませう。  
夫は有りがたうムります、宜しう願ひ申します。承知  
致しました。

物を借る

○申上げ兼ねますが、何品を暫くお貸し下さりませ。折角  
のことです、生憎、其品の持合せがムりませぬ。左様で  
ムりますか、是は、お遮間をいたしました。どう致しまし  
て、よう、お越しなされました。

○お大切なお道具ですが、何々を、少の間、おかし下されま  
すれば、有りがたう存じます。さあ、おあ、お持ちなさい、此  
方には、當時不用ですから、ゆるゆるお留り置きなされ  
ませ。是は有りがたう存じます、それでは、お借り申します。

同行を頼む

○何處へ、お越しなされますさうにムります。お遮間に成  
りませぬは、お供が願ひたうムります。夫は、丁度、好い都

合あです御ご一いつ緒しよに参まりましやう)

第八 贈答の挨拶

臚

○誰様は何處へ御立ちなされますさうでムります。ぞ御無事で、早うねつきなさせ。是はなむけの印にれ目にかけます。(是はけつこうにれ心がけ下されまして、有りがたく頂きます)

○誰様はいよいよ御縁組を定めになりました。芽出たう存じます。是は些少なから、なむけの印に差上げます。(夫は御念にかけられまして、忝う頂きます。皆様へ宜しうね傳へ下されませ)

贈

○是は少しでムりますが、親類から貰ひましたで、れ目にかけます。(是はれ珍しいれ品を、澤山有りがたう存じます。是は聊でムりますが、れ移りの證を致します。是は却て痛み入ります。)

○是は少しですが、時候の御見舞にれ目にかけます。(是は御心にかけられまして、結構なれ魚を澤山忝ふ存じます。皆様へ宜しうね傳へ下さりませ)

贈の禮

○先達は、結構なれ品を下されまして、有りがたう存じました。(どう致しまして、誠に有合せの品でムりました)

年玉

○新年で、れ芽出たう存じます、(左様でムります、れめでたう存じます)是は聊ながら、れ年玉の印にれ目にかけます、(これはこれば、有りがたう頂きます)

歳暮

○今年も暮まして、れ急がしうムりまじやう。(左様です、御同様でムります)是は歳暮の御祝儀にれ目にかけます。(是は有りがたう存じます、皆様へ宜しくれ傳へ下さりませ)

第九 謝事の挨拶

物を返す

○先日は、れ大切な品を拜借しまして、有りがたう存じました、(れ安い御用でムりました)

○れ大事なれ道具を、永々有りがたう存じました、只今れ返し申します、どうぞこれ調べ下さりませ。(もう御用はすみましたか、御入用なら、何時なりと、れ使ひなさりませ)有りがたう存じます。

周旋を受けし禮

○先日は色々御厄介になりました、有りがたうムりました。(どう致しまして、御都合がようムりましたか)れかけでくつろぎました。(夫は宜しうムりました)

○誰が始終御世話になりました、有りがたう存じます。(ご

う致しまして、行届きませぬこと計りでムります  
饗を受けし禮

○先日ば参りまして、種々れとりもちに預りました。(折角のれ越しに、何の風情もムりませんでした)いや有りがたう存じました、どうぞ、皆様へ、宜しうれ傳へ下さりませ。(左様申し聞けます)

退校の時教師に向ひて

○永々れ手厚い御教育に預りまして、御恩は言葉に盡きませぬ、尙此上も宜しうれ願ひ申上げます。

同生徒に向ひて

○久々の御親切、誠に有りがたうムります、此後も相かは

らず、御懇意に願ひます。(れなごり惜うムります。以後も相變りませず、御懇意に願ひます)どうぞ、御堅固で、れ早う御卒業なされませ、有りがたう存じます、あなたも、御健勝で、れ慕しなされませ)

第十 天気換の挨拶

晴天

○宜しいれ天気でムります。(左様でムります、うらゝかにムります)

○好天氣になりました。(仰せの通り、快晴致しました)

曇天

○うつとうしいれ天気でムります。(左様でムります、雲多

にムります

○れ天氣はとうでムりましやう。(左様でムります、多分晴れでムりましやう)

雨天

○どうぞ晴れますれば宜しうムりますに。(左様でムります、もう晴れますとようムりますな)

○宜しい露でムります。(左様でムります、好い雨でムります)

驟雨

○宜しい雨でムります。(左様でムります、是でちと涼しうなりましやう)

淫雨

○永々の雨天で困ります。(左様でムります、わるいれ天氣でムります)

強風

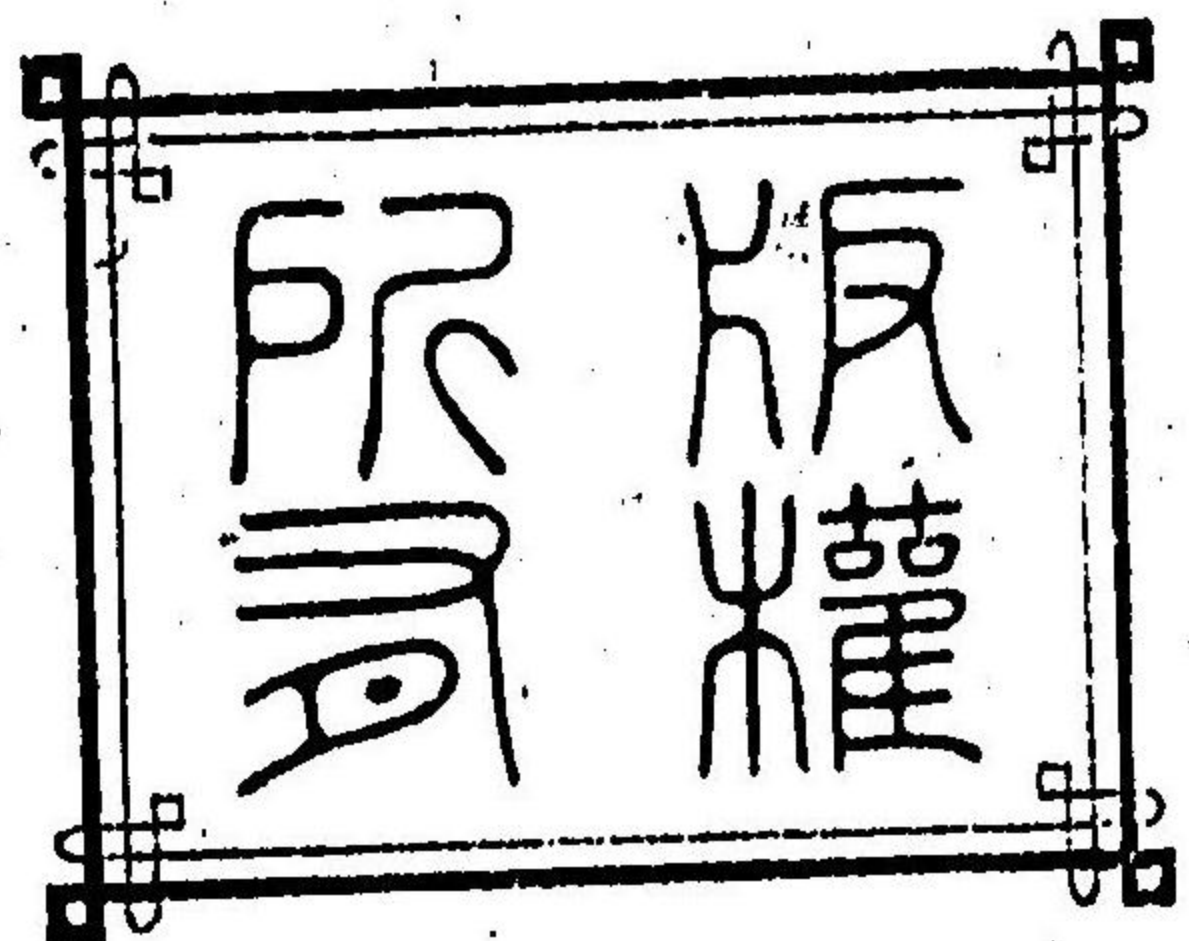
○今日は烈しい風でムります。(左様でムります、どうぞ早う静まればようムります、此上暴れますと困ります)

久早

○毎日よう早ることです、ちと降雨ますとようムりますに。(左様でムります、雨が欲しうムります)

小用普通換抄畢

明治二十八年七月十五日印刷  
同 年七月十八日發行



著者

小橋藻三衛  
岡山縣邑久郡朝日村  
大字久々井五十番地

印刷者兼

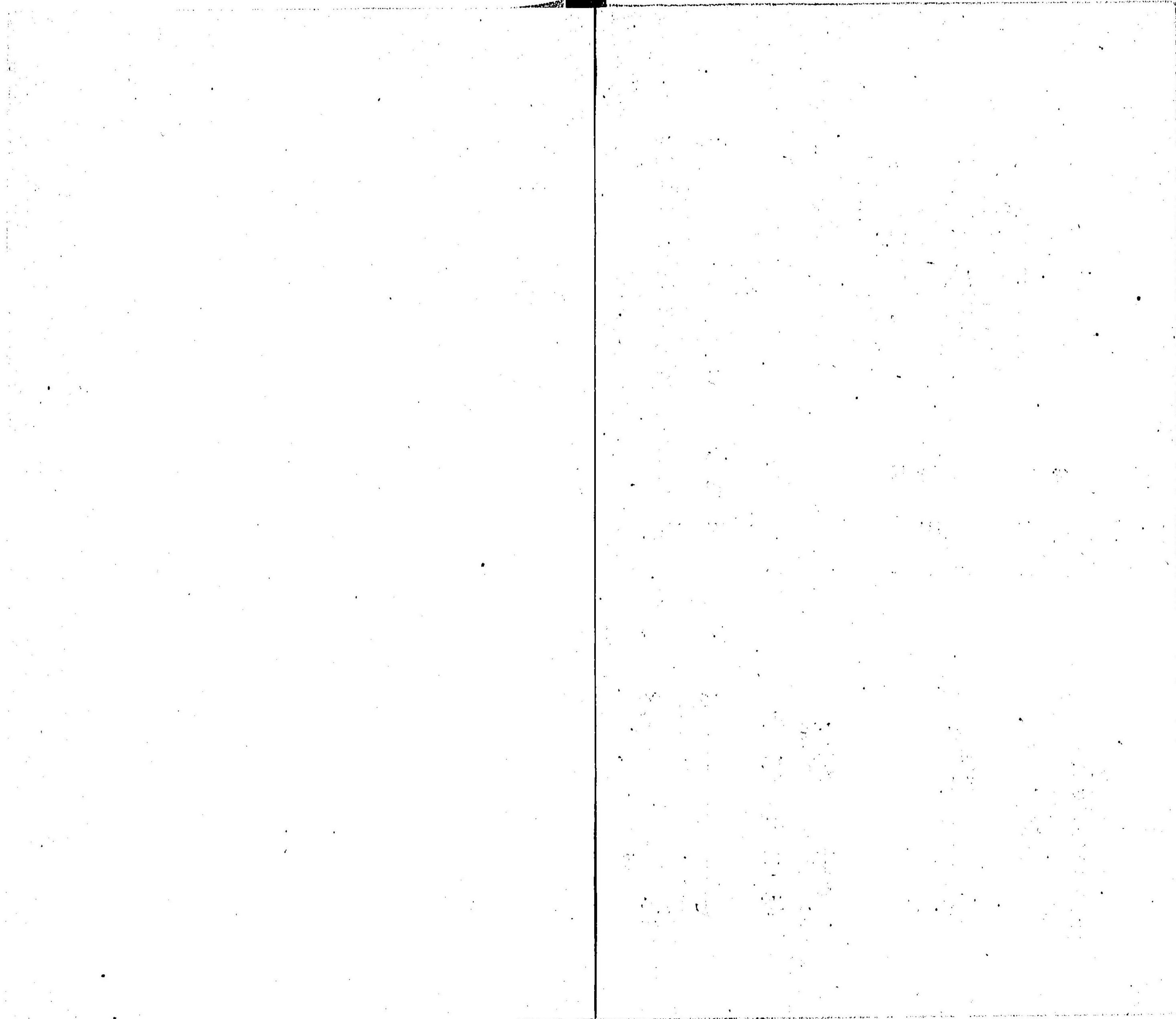
辻 太  
東京市神田區柳原河岸  
十四號地

印刷所兼

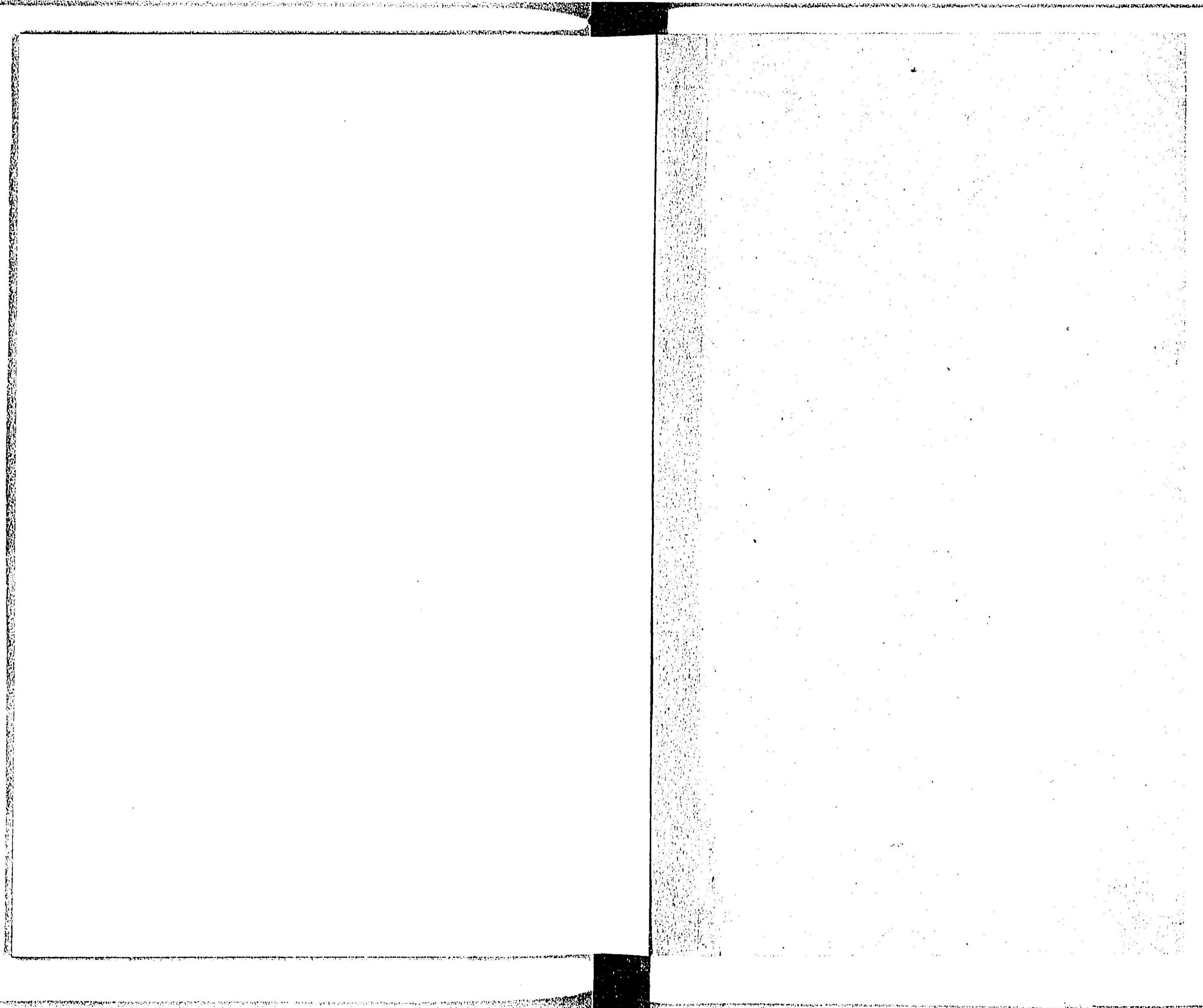
普 及 舍  
東京市神田區柳原河岸  
十四號地

定價金七錢

「換抄」







ALL INFORMATION CONTAINED  
HEREIN IS UNCLASSIFIED  
DATE 11/19/01 BY 60322 UCBAW/STP

特51

56

小学  
校用 普通 挨拶

国立国会図書館

012052-000-2

特51-56

小学校用普通挨拶

小橋 藻三衛 / 著

M28

AAG-0108

